

「藤井」

議員になって4ヶ月、「くらしよし倉吉」が元気に「住みたい 行きたい 帰りたい」まちになるためにという気持ちで活動をして参りました。今回は、倉吉が元気に、中部地区の新中核都市として発展するために働きたい、そういった気持ちで質問に入らせていただきます。

(1) 石田市長に次の点について質問します。市長の政治姿勢、開かれた市政とリーダーシップということです。一つ目は、第11次総合計画の進捗状況、二つ目は、まちづくりとその方向性についてです。

石田市長は、2期目の市長選に向け、まちづくりの基本姿勢として第11次総合計画「くらしよしふるさとビジョンの着実な推進を図り、倉吉の次世代に自信を持って引き継ぐことのできる倉吉をつくります。」と討議資料の中で書いておられます。

第11次総合計画については、私も12月議会で質問しました。その中で、市長は「総合計画の中でいろいろな成果指標をもうけている。それらの状況を市民意識調査やいろいろな実績の数値などを用いて達成状況をとりまとめて、それを評価した上で公表していきたい。近いうちにホームページなどを通じて公表していきたい。」と答弁されました。そこでお尋ねですが、意識調査などの公表とその分析・考察をどうされたのか、また、その結果を市政にどう活用されているのかお伺いします。

次に、まちづくりとその方向性についてです。今回は、「倉吉駅周辺のまちづくりについて」と「学校・保育所再編等とまちづくりについて」の2点についてお伺いします。

「倉吉駅周辺」と限定する前に、倉吉の強み・セールスポイントについて市長の考えをお伺いします。市長の常日頃考えられていることで結構ですので、市長としての思いをお聞かせ下さい。

「学校・保育所再編等」についてです。学校の設置及び管理に関しては教育委員会に関わることです。教育委員会制度のあり方については国の方でも検討が進められていますのでそれを待つこととなります。しかし、石田市長は教育に対して深い思いをお持ちの方です。4年前の市長就任の夏には市内小中学校の管理職研修会でお話をされました。市長の話の聞き、参加者代表としてお礼のあいさつをしました。

最近、学校や保育所の再編について市民の方から倉吉はどうなっていくんだろうという不安や不満の言葉をお聞きすることがあります。それは、学校や保育所の再編に関わって、倉吉のまちづくりの方向性や具体的な内容が分かりづらいということです。教育や福祉に強い石田市長に

お聞きします。倉吉市政60年の大計として、そして、倉吉100年のまちづくりに向けて学校・保育所再編等は必要なことだとお考えですね。考えをお伺いします。

「市長」

第11次総合計画についてです。市民の皆さんとビジョンを共有しながら取り組んでいくことで地域の活性化を図っていこうという思いを持っています。

総合計画の執行管理がきちんとなっていないといけないと思っています。ただ、従来の計画とは違って、少し緩やかなものとしてとらえています。予算をつけるのに計画に上がっていないとつけないといったものではなく、予算とリンクしたものではなく、予算は予算として毎年の予算編成の中で査定をしながら編成をしています。少し緩やかなビジョンとしてつくっています。しかし、ビジョンの成果指標という形でもうけながら進捗状況達成状況がどうなっているかチェックしていくのは大事だと思っています。市民意識調査も指標の中に取り入れているものもあるので、その結果もリンクするものもあります。意識調査の結果については12月末にホームページに計指させていただいております。

数値を活用してそれぞれの施策の評価ということもやっていく必要があると思います。分析がきちんできてきているのかということについては、まだまだ不十分だと思っています。この辺は生かし方、あり方なども含めて検討したいと思っています。どういう活用しているのかということについては、成果指標の中に意識調査の結果も使わせていただく状況にあります。分析については、前年との比較、自由記述ももうけていますので、項目整理という状況になっています。それをどのようにとりまとめて活用していくのか、他市の状況なども見ながら勉強していきたいと思っています。

施策評価については、意識調査の結果を反映したりする作業もあるので意識調査の方が出てこないとできないことにはなりますが、これもまもなく公表できるのではないかと考えています。これらの評価も活用しながら予算編成についてはやってきたところですが、予算編成はこの結果が分からない段階でやっている格好になっているので、これからは、こういった形でこれらとリンクさせていくのかあるいは活用していくのか、よく考えていきたいと思っています。

倉吉の強み・セールスポイントをどう考えているのかということですが

が、まちづくりにあたって

①歴史があって文化度が高い。文化的なものがさりげなくあるまち。

②非常に人間関係が深い。 ③ NPO などの各種の団体が活発に活動しておられる地域ではないかと思っています。

こういったものをうまく生かしてやっていくことが必要ではないかと思っています。それで、伝建群地区の活用であったり、協調した取組がこれからは、財政の厳しくなる中で大切になってくると思います。

教育、学校再編について、子どもたちの健やかな成長ということを第一義に考えていかなければならないと思っています。学校・保育所も含めてそれぞれの地域で重要な、それぞれの地域で核になる重要な重要な役割を果たしている施設であり、機関であると思います。おろそかに考えていいものではないが、客観的な環境、人口が減少してきています。これから30年間に全国で人口が2000万人減るという大きな枠組みの中で、学校・保育所というものを何もしないですむということにはならないわけです。それをしっかりと考えていく必要があると思います。

その際に、子どもたちの成長ということを第一義に考えていく必要があると思います。教育委員会、市民の皆さんとも合意形成をはかりながら、困難な問題ではありますが、少しでも前進していくようにしていきたいと思っています。

「藤井」

(2) 第11次総合計画の評価等の公表についてです。実施計画一つの節目でもあり、評価をいかしていくことが大切であると考えます。意識調査の結果については確かにホームページで公表されています。平成25年度分について12月24日付で、約100ページにわたって結果と考察が出ています。これは、過去4年間とも同様です。

しかし、これはこれでよいのですが気になることがあります。市民が結果を見て特徴的なことは何なのか分かることが開かれた市政のポイントだと思います。この結果を担当課だけでなく、各課の仕事の改善にどう生かしているのだろうかということです。調査は5月から6月にかけて実施されました。その半年後に結果として公表されています。スピード感という点でも課題があります。これが早ければ早いほどいろいろなことに生かしていけます。1000名程度の回答なので大きな変化は見られないかもしれませんが、たとえば、過去3年、4年の結果を比較して特徴が見えるもの、取組の必要性が分かるものもあります。たくさん

の設問の中から私なりに取りだしてみました。資料をご覧ください。

(執行部・議員・傍聴席に資料配布)

問11「倉吉市は高齢期になっても、安心してらせるまちだと思いますか 62.5%～65.4%」問25「倉吉市は子育てと仕事が両立しやすい環境が整っていると思いますか 39.1%～52.9%」など、前の年に比べると結果がよくなっています。これは、住みよい街ランキング(高齢者が住みよい街1位、出産・子育てしやすい街10位(雑誌:週刊東洋経済社)などの影響もあるかもしれません。反面、問26「あなたは子育てに不安を感じていますか」はそう感じている人が増えているのですから、具体的な施策をとっていくことが必要です。また、問49や問50「あなたは、倉吉市では情報公開など市民に開かれた市政運営が行われていると思いますか」では、肯定的な回答も20%前後と少ないのですが、「わからない」という回答が50%近くあることが気になります。倉吉市もホームページや市報などで情報提供はきちんとできているのですが、2012年度全国情報公開度調査では県内4市の中で最下位となっています。このあたりも研究の余地があると思います。

意識調査を含めて、第11次総合計画の成果指標の達成状況等から改善をどのように図っているのか、市役所全体としての全庁的な取組がありましたらお伺いします。

次に、倉吉駅周辺のまちづくりについてです。先ほど市長は倉吉の強み・アピールポイントについて挙げられました。それに加えて私は、一つには、地理的に鳥取県の中央にあること、特に大きなビルなどはなくてもコンパクトにまとまっている生活に密着したまち「くらしよしのまち」であると思います。倉吉には特急が止まるJRの駅、高校・大学等の文教施設、病院・老人福祉施設などが整っています。その中心となるのが倉吉駅です。(「倉吉駅周辺まちづくり」のパネル提示)

倉吉駅は、倉吉駅周辺まちづくり構想にもとづいて、駅の橋上化、自由通路などで利便性もよくなっています。また、地域交流センターや物産館などもできました。エキパル倉吉行政サービスコーナー等もあり、とても便利です。先日の土曜日、住民票をエキパルで発行してもらいました。係の方に聞いてみると市役所の市民課の職員5名が交替で仕事に当たられているとのことでした。駅については、市とJR、それと関係した団体の皆さんで連携してさらに市民にとって利便性や賑わいのある場所にしていきたいと思います。

ところで、駅周辺のことについてお聞きします。上井地区を回ってい

ましたところ次のように聞かれました。「駅から福庭・福庭東につながる道路はいつできるのでしょうか。便利になる場所だからと聞いて家を建てたけどいつまでたってもできないが・・・」また、別の方からは、「小田から駅北につながる道はよくなったが、駅北から東郷方面に抜ける道はどうなるのですか」と聞かれました。福庭八屋線、駅北通り線（東郷方面）等、倉吉駅周辺の道路についての計画と進捗状況について市民の皆さんにも説明をお願いします。

次に学校及び保育所の再編についてです。先ほど、市民は将来のまちづくりに対する不安・不満があると申しました。例えば、

①学校・保育所がなくなることについて

- ・なくなった場合のフォロー～地域づくりや地域振興策の具体案
- ・スクールバスの運行計画
- ・学校の校舎（耐震工事もしているが）校舎や校地の活用は「準備委員会」で協議となっているが、市としての案を示して欲しい

②1学級・学校の適正人数が出ているが、再編後に下回る学校もある。

- ・現状にあわなくなったハード面とソフト面
0～2歳児が多くなっているのに建物自体が対応していない。
保育士の3分の2が臨時という市立保育所の状況。
実際には10名を切っている学級もある状況(学校)

③財政的な面での考え方も示してほしい。

現状維持と再編した場合の費用(校舎建築、再編に関わる諸費用など)

④市民の関心、特に再編対象となっていない校区住民の関心が薄い。

まちづくりを考えると市(民)全体に関わる問題である。

⑤保育所～中学校まで併せた論議が必要である。

子育てという市民全体の問題である。

総じて、保育所・小学校の再編についての説明と論議が不十分ではないか。等です。

この問題について市としてのきちんとした対応が求められています。市役所内で方針・出せる具体策をもって説明をして欲しいと考えます。それが、市民の不安・不満をなくすことにつながります。市の代表として、これからの展望や思いをいろいろな会の中で語って欲しいのです。市長の出番なのです。お考えがあればお伺いします。

「市長」

意識調査などの結果について、議員の分析されたものを見ましたが、

確かに(市として)十分に分析できていないのかなと思っています。

時間も確かにかかっています。どうしたら早くできるかということも含めて勉強していきたいと思っています。これを事務改善なりに生かしていくことも必要であろうと思います。他市の状況なども十分勉強させていただき、取組に生かしていきたいと思います。

倉吉の強みについても、もっともっと良さがあるということも指摘していただいております。総合計画の中でも強みを強化して弱みを克服していこうとすることを書いております。倉吉の強みを生かしながらまちづくりに取り組んでいきたい思います。

具体的なお質問、道路の進捗状況についてです。駅北通り線、駅から短大の方に行く道路ですが、現在、県の事業として整備をしていただくよう検討していただいております。今年度は交通量の解析調査、市の方で用地の基礎調査をしております。今後、県道網としての必要性を整理しながら、来年度予備設計をしていただくようにしています。県道上井北条線、踏切の所に行く道路ですが、これは、駅北通り線が県道になれば市の方で管理していくことになると思います。八屋福庭線の方ですが、現在施工中で、今のところ平成28年度完了予定と考えております。

学校の再編についてですが、地域の皆さんにとっては(学校が)なくなった時どうするのか、地域に大きな影響が出るのではないかというご心配、校地の後の活用、財政的な問題とか、ハードとソフトがあっていないとか、ご指摘いただいたことも含めて、地域の皆さんに説明していく努力は継続的にしていきたいと思っています。併せて、教育委員会任せにせず、市長が出て説明していくべきだということですが、もちろん、最終的に設置者は市長ですので、よそ事として考える気はありません。教育委員会ともご相談しながら、出るべき時にはきちっと出て、合意形成に努力したいと思っています。非常に難しいテーマだとは思っていますが、現状は地域の皆さん自身も持って折られると思うので、それらを踏まえて、合意形成に努力していきたいと思っています。

「藤井」

(3) 第11次総合計画の評価と改善につきましては、市長がリーダーシップを発揮して改善の必要なことについてはスピード感を持って取り組んでいただきたいと思います。

学校・保育所の再編問題については、市政100年に向けた大計として市長自らの思いや方向性を示していただくことを期待しています。

倉吉駅周辺まちづくりについてです。現代は都市間競争、地域間競争の時代です。商業などの落ち込みが目立ち、中部から東部や西部に買い物にでかける人も多くいます。しかし、逆に東部も西部も呼び込める場所にあるのが倉吉駅周辺です。実際、全県を対象にした会合などが倉吉駅周辺の施設で行われることも多いのも事実です。魅力あるまちをつかっていけば人は集まるのです。駅北の福庭清谷方面や駅南メイン通り等は民間活力も含めて、それなりに広がりや発展をしています。

しかし、駅南の旭地区（商業地域）では空き店舗や空き地が目立ちます。くらしよし倉吉の特徴に「生活密着型小売業事業所数」（歩いて行ける地域のお店）の多さがありました。昔ながらの便利なまち、歩いて・自転車で買い物のできる町並みを地元の方のご意見を伺いながら、もう一度作り上げていくことが大切であると思いますが、市長如何お考えですか。

駅周辺のまちづくりについて最後の質問となります。改めて地図を見ると、倉吉駅周辺は駅を中心に半径1 km ほどの間に学校（保・幼、小・中・高・大学）などのある文教ゾーン、病院・福祉施設などのある福祉ゾーン、生活密着型や民間活力による商業ゾーンが広がる県中部の玄関口にふさわしいコンパクトで便利な地域です。その真ん中にあるのが駅北の一等地、12街区（市有地、JAの土地5000平米弱）です。現在、プロポーザル方式で再募集していますが状況はどうなっていますか？ 私は、東部・西部から車でもJRでも1時間かからない駅前のこの地を倉吉の魅力ポイントとして、倉吉市民が将来にわたって誇りに思う拠点にしたいと考えます。

文教ゾーンの象徴として例えば県立美術館の誘致に名乗りを上げるのも一つの手だと思います。全国的にも秋田県立美術館・静岡市美術館・横浜市美術館などの駅前、駅近美術館が近年建てられています。用地もそれほど広くなくても地の利を生かし、コンパクトシティ・バリアフリーの象徴として建てられています。例えば、静岡市美術館のホームページには館長挨拶として「静岡駅から雨に濡れずに行ける「便利な」美術館です。ロケーションやアクセスのメリットを生かした都市型美術館」とあります。

鳥取市では竹内市長がことある毎に県に美術館の誘致話をし、市有地の提供ということも新聞に載っていました。石田市長も倉吉の市長として県中部の新中核都市の首長として「倉吉に持ってきたらどうか、準備はありますよ。」と県に提言されてはどうかでしょうか。

なお、学校教育の推進について、「子どもたちの学びの力」については、時間の関係で今回は取り下げさせていただきます。

「市長」

地域間競争の中で、特に商業面で東部・西部に取られてしまっているが、逆に県の中央にあるというメリットを生かせば、役割を果たせるのではないかということですが、その通りだと思います。

小規模なコンベンションなどは、中部を活用していただく可能性はあると思います。小規模とは限りませんが、人の集まる場所としてはメリットのある場所だと思います。

上井・北条線の沿線などで空き店舗が増えている、あのあたりに限らず、古くからの地域はそういった状況が出ているように思います。コンパクトシティというのは、財政が縮小していく中で、それぞれの地域をどう言うような形で経営していくのかということとコンパクトさを求めている努力はしていかないとないと思います

倉吉の中では明倫・成徳地区はこのようなことが深刻な状況になってきていますが、それに続いて倉吉駅周辺も同じような状況が見えつつあるという状況です。

新年度、中心市街地活性化の計画づくりをやりたいと思っていますが、明倫・成徳地区だけじゃなくて、上井地区周辺も考えてみたいと思っています。ただ、そこ(上井地区)まで入れてしまうと、規模が大きくなってしまいますので、国の方との調整が必要になってくるかもしれないと思っています。その辺を含めながら中心市街地活性化の計画を考えたいと思っています。

12街区の活用についてです。12街区は改めて公募している状況で、まずはこの状況を見ていきたいと思っています。ご提案のあった県立美術館への活用について、市が決める話ではありませんが、県立美術館については県の動き自体がはっきりしない面もありますので、広域連合、4町の町長さんともぜひ、中部には敵地がいろいろあるだろうと思いますので、一致して「中部へ」という働きかけをしていきたいと思っています。倉吉に限らず、以前は「北栄町に」という話もありましたので、これも含めて中部全体で取り組んで行けたらと思っています。